

〔箱入り娘タイプ〕

中1、中2を通して「勉強しなさい」と言う必要が無かった。部活も頑張り、成績も悪くない。宿題も、期日までに何とか頑張って提出する。中3になって、部活も最後の大会に向けて猛練習、くたくたになって帰宅。でも、勉強も定期テストに向けて頑張る。

大会は負け、部活終了。本人曰く「…F高校に行きたい、S高校に行きたい」。親は普段から、頑張る子の様子から、やり遂げてくれると信じ切っている。定期テストの順位も相変わらず上位。次も頑張れば大丈夫…と思っている。期末に向けての勉強が始まり、受験生となっていく子供に親は安心する。

努力の末、期末テストの成績は復活。そして最後の受験まで、親も子もこの調子でいけると予測する。

夏、夏期講習もしっかり受けて、難しかったけど頑張ったという。しかし、9月の北辰、偏差値が下がり、大事な2学期の中間も順位は下がった。落ち込む子に「みんなも頑張り始めたからかな？次、頑張ろう」と励ます親。子も気を取り直していつも通り机に向かう。

学校の三者面談、「目標の高校は大丈夫」みたいな話で帰宅。2学期期末で復活するも、11月の北辰伸びず。「気にしない、気にしない、力、あるんだから、また頑張れば大丈夫だよ」と慰める親。子は、「これ以上頑張れない、今も寝る時間を減らして頑張ってる。これ以上、どうやって頑張れるの・・・」と、ポロポロと涙を落とす。